

触媒懇談会ニュース

触媒学会シニア懇談会

「シルバー研究所」構想

もう 10 年も前のことですが、化学技術戦略推進機構(JCII)に勤務している時に、二三のスタッフと「シルバー研究所」構想なるものについて議論したことがあります。これは、研究者・技術者が定年退職した後に研究業務に従事するためのもので、次のような観点から考えたものでした。①定年退職後の平均余命が長い現在、その後も社会につながり、何らかの社会的貢献がしたい、②自分の専門を生かすことができればそれに越したことはない、③研究者・技術者は、60 歳になってもまだ研究能力が残っているのでないか、④生活は主として年金に基づき、生活のための収入を目的としなければ、研究のコストパフォーマンスは高いはずだ、というものでした。言ってみれば、ボランティア活動に従事したり、趣味の教室に行くのと同じスタンスで研究活動を位置付けてみてはどうかということでした。

具体的なイメージとすれば、企業や国公立の研究機関がシルバー人材を活用する研究所を設置し、OB 研究者を募る。研究者は自分でテーマを提案するか、希望者には研究所が受託したテーマを与えられるものとする。人件費以外の研究費は研究所持ちで、当然予算に基づいて研究者に割り当てられる。予算削減のために中古の機器類を積極活用する。研究成果は報文 and/or 特許として公開され、評価される。評価が悪ければ契約が打ち切られても仕方がない。基本的には無給であるが、受託研究費が得られる場合には相応の報酬が得られるものと

し、特許出願がある場合は相応の対価を得るものとする・・・。

このようなことが頭にあったせいもあり、定年を前にして、もう一度実験をしてみたいという気持ちが強くなりました。やってみみたいテーマもありました。幸い東工大の岩本先生のご好意と会社の支援も得られて、その時は会社からの派遣という形で定年後の大学での研究生活が実現しました。

60 歳にもなって本当に実験ができるのか？これは重要な疑問です。何しろ大半の人は 20 年以上も自分で実験をしていなかったのですから。私は Yes と思っていました。それでもいささかの心配がありましたので、研究室で最初に試したのは 1ml のピペットで水を量り取ることでした。その結果は十分満足できるものでした。量り取った水の重量を天秤で量ったところ、5 回の結果がすべて±1mg の範囲に入っていたのです。これでかなり精密な実験ができる自信が得られました。

実験操作のほとんどは、“体が”覚えていました。ピペットで量り取る動作、メスフラスコのメニスカスを合わせる動作、天秤で粉体を量り取る動作、いろいろなガラス器具を洗う動作、等々・・・。こうと決めて実験を始めると、手足は違和感なく動きます。大学時代、企業での研究者時代、だてに時間を過ごしていたのではなかったのです。これは誰にでも当てはまることだと思います。まさに「昔取った杵柄」です。

年を取ってからの実験で一番困るのは目

の衰えです。実験では近くも遠くも見えなければなりませんから、老眼鏡をつけたりとったりするのは間に合いません。その点で助けになったのは遠近両用のメガネです。しかも保護メガネを兼ねてくれるので大変重宝しました。石鹸膜流量計でガス流速を測る時にはルーペを援用しました。

実験はできることが分かりましたが、問題は創造的な研究ができるかどうかです。その前にはっきりさせておくべきことは、決して若い人と競争する必要はないということです。若い人と張り合えば「年寄りの冷や水」になるのが落ちです。それでも研究である以上、何らかの創造性が必要です。私は自分が創造的な人間であるとは決して思いませんが、それでもそれなりの独創性は発揮できると思っています。それは、個々人の経験はそれぞれ個性的なものであり、これが独創性を生み出す源になるに違いないと考えるからです。実験技術もそうですが、経験はまさにその人の財産に違いありません。その財産を定年とともに簡単に捨ててしまうのは、個人的にも社会的にももったいないと思われれます。長年の研究者・技術者生活をしてきた経験の中で、何か疑問のまま残してきたもの、やりたくてもテーマ化できなかったアイデアなどがあるのではないのでしょうか。あるいは自分の経験に照らして現在の世界を見た時、取り組んでみたい課題があるかもしれません。若い人のように飛躍的な仕事はできないかもしれませんが、経験に基づくそれぞれのアプローチが新しい知識や技術を生む可能性は大いにあると考えます。

実際に、会社や大学をリタイアした後もいろいろな形で研究に携わっておられる方が増えているようです。会社でも定年後、再雇用の形で経験が生かされる人が多くなりました。わが触媒学会シニア懇談会のメンバーにもそのように活躍されている方が何人もおられます。従ってここに書いたようなことは既にそれほど必要でないのかも

しませんが、ちょっと夢のある議論だったと思います。ノーベル賞を受賞した下村先生が自宅に実験室を持ち、いまでも研究を続けておられる姿をテレビで見ましたが、若い人の邪魔をせず、最小限のコストでまだ残る能力を研究に生かす場があれば、それなりにシニアの生きがいになるのではないかと、社会のためになるのではないかと改めて思いました。

(出口 隆)

シニア懇談会名称

名称について下記の4件の提案への投票結果は下記のとおりでした。

- 1) ロングライフキャタリスト倶楽部(2名)
- 2) 新現役触媒懇談会(1名)
- 3) 活性促進剤の会(1名)
- 4) 触友会(2名)
- 5) シニア懇談会(2名)

結論ができませんので春の触討で話し合うこととなります。

触媒学会からのお知らせ

○待望の「触媒便覧」が発刊されました。触媒学会誌 Vol.51 [1]に振り込み用紙が入っています。

31,500円ですが学会員は特別価格で27,500円です。

50周年記念事業で最新の技術が掲載されています。是非、御購入くださいますようお願いいたします。

○春の触媒討論会は埼玉大学で行われます。ご存知の通りシニア会員は討論会の参加登録費は無料ですので是非ご参加ください。

日程は2009年3月30日(月)、31日(火)です。

<http://www.shokubai.org/meeting/index.thl>

○討論会会期中の3月30日(月)12:00~13:00昼弁当を囲んでシニア懇談会を開催する予定です。参加者はお弁当の準備をしますのでお知らせください。

○第4回触媒科学国際シンポジウムが千葉

県木更津市で開催されます。参加費は無料
です。事前登録が必要です。

2009年3月30(月)～31日(火)

シニア懇談会事務局

連絡先 takashiro_muroi@yahoo.co.jp

FAX 029-873-8844